※令和４年度以降入学生用

学校番号	1016

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	地理探究　（二宮書店）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年生で学んだ「地理総合」を発展させ、より具体に論理的に自然現象や文化の成立・発展を学んでいきます。地理は自然環境と人間がどのように関わってきたか、関わるかを学ぶ科目です。現在、地球規模で自然環境の破壊や文化が否定されるなどさまざまな課題が山積みです。地球で生活する人間が豊かな社会を形成・維持・発展させていくにはどうすればよいのかを考えながら学習をすすめていきます。

２　学習の到達目標

・地図の利点等を理解し、活用できるようになる。
・地域と自然環境を理解し、そこで生活する人びとの文化や産業を考察する。
・現代世界の地理的な諸課題を地理的背景から考察できるようになる。
・自然災害のメカニズムを理解し、防災の観点や大地震発生時に地域社会の一員としてどのように行動することができるのかを考える。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	知識：地理にかかわる諸事象に関して、地球規模や地域ごとでの規則性や傾向を理解する。また、地球や諸地域の課題を理解する。 技能：地図や地理情報システムを活用しながら、地理に関するさまざまな事象を調べまとめている。	地理的条件によって自然環境や人間の生活や文化が異なることについて、各地域の生活や文化を多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向け考えることができ、それを説明することができる。	地理に関わる諸事象について、社会の形成者として、よりよい社会の実現に向けて、課題を自分たちの問題と捉えることができ、課題解決のために主体的に探求しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	現代世界の系統地理的考察	第1章　自然環境	a:それぞれの地域区分で地形や気候が違うことによって、住環境や食生活などが違うことを理解できている。 b:地球規模での地域区分による違いと日本・中国などの国家規模での地域区分の違いを考察しまとめることができる	・定期考査 ・白地図作業	・資料の読み取り、レポート ・定期考査	
		第2章　資源と産業	a:土壌や気候、植生による農作物の生産などの違いを理解している。 c:造山活動による地形の違いと資源の関連性と工業地域の形成について。自ら特定の地域を設定し、産業等を調べまとめることができる	・定期考査 ・白地図作業		・ワークシート、レポート
		第3章　人・モノ・金のつながり	a:交通の発展と人の移動について理解している。貿易の推移や貿易摩擦について理解している。 c:日本の輸出入品について考察し、まとめることができる。	・確認テスト ・定期考査		・レポート
		第4章　人口、村落・都市	a:人口ピラミッドについて理解している。 b:少子化と人口爆発について各国の政策や対応、問題点などを考察している。	・定期考査	・グラフの読み取り ・ワークシート	
		第5章　文化と国家	a:世界の衣食住の文化や宗教について理解している。 b:日本の領土について理解したうえで、他国との領土問題と経済水域等の国際ルールについて考察している。 c:各地域の文化や宗教を主体的に学ぼうとし、多文化共生の糸口を見つけ出そうとしている。	・定期考査 ・白地図作業	・ワークシート ・地図の読み取り	・ワークシート、レポート

※令和４年度以降入学生用

2学期	現代世界の地誌的考察	第1章　地域区分 第2章　現代世界の諸地域	a:それぞれの諸地域の自然環境と文化や産業を関連付けて考えることができている。 歴史的な背景も踏まえて国家の成り立ちや産業の形成、課題を理解できている。 b:各地域、各国のデータを読み取りながら、地域や国家の産業等の特徴を考察することができる。 各地域の組織を理解したうえで統合の問題点や地域主義の動きについて考察することができる。 c:それぞれの地域や国家について文化・産業・民族等について複数の資料を用いて、特徴や課題をまとめ、発表することができる。	・定期考査 ・白地図作業	・ワークシート ・作図 ・データの読み取り	・ワークシート ・レポート ・発表
3学期	現代世界におけるこれからの日本の国土像	現代日本に求められる国土像	a:なぜ日本で地震が多発し、大きな地震が発生するのかを地理的観点から説明することができる。 台風被害などを通して、地球規模で課題となっている環境問題について理解できている。 b:ＳＤＧｓの観点もふくめ、持続可能な社会をつくっていくために世界が、今自分たちが生活している国や地域が何をすべきか考察することができる。 c:課題解決のため、各国や各地域のさまざまな取り組みを調べ、社会の形成者として主体的に何をすべきか考え、取り組もうとしている。	・定期考査	・データの読み取り ・レポート	・レポート ・ワークシート ・発表

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度